

雀とダニ～酒井明 説話集9※～

かわいい雀が5、6羽庭にきて遊び始めました。カナリヤの餌がこぼれているのを見つけたのです。人が近づくとぱっと飛び立ちますが、その内だんだん慣れてきて、すぐに戻ってくる様になりました。

以前の貝塚や新田は、よせが一杯繁っており、いろいろな鳥がその中で暮らしていましたが、中でも一番賑やかなのは雀だったでしょう。たくさんの仲間が集まり、よせの茎にとまってさえすり合うのです。

お腹が減るとあちらこちらの田んぼや草むらで落穂や草の実を拾います。稲木にかけられた稲束に、黒くなるほど群がることもありましたが、近頃雀もめっきり少なくなった様です。

少し気をつけて見ると、年中こころで見られる雀と、北と南を行き来する雀とあります。見分ける方法としては、のどに黒い毛が有るか無いかが一番簡単でしょう。

さてこの雀、せっかく慣れて毎日遊びに来てくれていた一羽が、ある日どうしたことか冷たくなって死んでいました。猫に噛まれた跡もありません。雀の体を撫でてやっていると、頭の下の方に何やら丸いぶよぶよしたものがくっ付いているのに気が付きました。

見るとダニです。山を走る犬にもたくさんくっついて来ます。そのダニが雀の血を吸って丸くなっているのです。どこかの草むらの付近で餌を探している内にとりつかれたものでしょう。

かわいそうに、雀はたった一匹のダニのために命を落としてしまったのです。

近頃、この雀がやられたダニではないが、ツツガ虫という虫に咬まれて高い熱を出して苦しむ人が増えているそうです。

原因の分からない高い熱が出た時、一週間位前に川原や野原の草の中で遊びはしなかったか、それが病気を治す大事なポイントになるそうです。

なんにしても自然界では色々なことがあり、小さなものでも、なんだとだけでは済まされないものが多い様です。

※) 平成 26 年 3 月に逝去された宿毛市出身の酒井明さんは、長年教鞭をとる中で地域伝承や動植物の生態のフィールドワークを重ね、退職後も宿毛市文化財保護審議会(当時)長などを歴任、益々研究を深めながら観察日誌や説話、伝承技術などを膨大な手書き原稿にまとめられました。

ご遺族より宿毛歴史館に寄贈された原稿から、順次「酒井明説話集」として公開してまいります。

